

令和3年度 学校評価まとめ(概要)

甲府市立新紺屋小学校

学校教育目標 「かしこく 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」

全体を通して概ね好評価であるが、以下の点を主な課題として改善を図っていく。

1 「学校運営に関して」

- ・学校は楽しいと回答する児童がほとんどであるが、個に応じた指導を一層充実していくために、学習指導員や山梨大学院生、教育ボランティア等との連携について、より明確な関わり方や効果を考えていく。可能な限り、授業での様子を聞き、情報交換等を行う中で、次の活動に生かしていくようにする。単学級だからこそ、職員間の連携を強化し、組織的に取り組んでいく必要がある。報告、連絡、相談を管理職ばかりでなく、職員全体への実施を励行する。
- ・働き方改革を推進については、業務内容の精選や変更、業務の効率化を図ることを、定期的に声掛けを行い意識化していく。
- ・児童の危機意識を高める指導や安全指導について、保護者の捉え方に若干課題が見られるので、どのような訓練等、取組を行っているかを HP 等で確認したり、家でも話題にさせていただき、どう避難するかシミュレーションを子供と一緒に行うよう促したりしていく。

2 「学習指導について」

- ・楽しくてわかる授業は、常に教員が意識し取り組むべき最も大切なものである。授業においては、校内研究で取り組んでいることを中心に、教職員はアクティブ・ラーニングの視点で授業改善を行い、ICT を有効活用して、より分かりやすい授業やきめ細かな学習指導に努める。特に、主体的な学びに関わって、見通し・振り返りをしっかりと授業に位置づけ、次時の授業につながるようにしていく。
- ・読書に取り組めるよう指導・支援について、ボランティアや教務職員による読み聞かせ、読書週間に伴う各種イベント、おすすめの本の紹介を各自で作成し掲示、学級文庫の定期的な本の入れ替え、家読ポップコンクールへの応募等、子供たちが本に親しんでもらえるよう取組を行っている。今後も本との出会いを工夫しながら働きかけていく。
- ・学校の特色をしっかりと継承しつつ、新しい学習指導要領に係る教育課程の実現から、関連性を明確にして活動を行っていく。

3 「生徒指導について」

- ・挨拶については、教職員と保護者の捉え方に多少ズレが生じている。何のために挨拶するのか、折に触れて、確認し気持ちのある挨拶ができるようにしたい。昨年度も同様の課題が挙げられているので、今一度、教職員で共通理解を図ると共に、保護者にも協力をお願いし、挨拶が習慣化できるようにしていく。
- ・いじめ・不登校・問題行動等の予防や早期発見及び速やかな対応については、保護者からの評価では「あてはまらない」と回答した方もいる。この項目については、数値が低いからといって看過できない。いじめ防止対策により、本校の「いじめ防止基本方針」を更新し、HP にもアップした。これを広く周知し、保護者、地域と連携して進めていく。児童が悩み苦しんでいるときに、自ら SOS を発せられるような雰囲気づくりをしていく。

4 「連携について」

- ・学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している項目については、児童への関連質問においては、前年度に比べ「あてはまる」率は上昇したものの、教職員や保護者の認識とはズレが生じている。児童が相談しやすいと思うことが第一であるので、学校全体として、全教職員が全校児童をみるという意識で、安心して学校生活を送ることができ、不安や悩みが出たときには共感的に話を聞き、一緒に悩み解決していく体制を構築していく。
- ・お便りやHPを通して、家庭や地域に知らせ理解を得ていることに関しては、前年度の結果よりも上昇してはいるが教職員との結果にはズレが生じており、情報を発信し理解を得ている認識に温度差がある。昨年度に比べ、学校での様子を HP に UP したことで、保護者からも自身の子供が所属する学年ばかりでなく学校全体の様子が分かって良かったというコメントをいただいた。不定期に連絡する安心メールに HP の URL を貼るなどしてアクセス数を増やすなど、折に触れて紹介するようにしていき周知を図る。

